

## 令和4年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 分科会（第3回）

### 会議の概要

- 会議名 令和4年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 分科会（第3回）
  - 開催日 令和4年11月1日（火曜日）
  - 出席状況 東京都、港区、新宿区、江東区、品川区、目黒区、大田区、渋谷区、中野区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、江戸川区、国土交通省
  - 議事の要旨
    - \* 国土交通省より、騒音測定結果や部品欠落報告等についての説明
- 

### 【主な意見及び国の回答等】

- ・ 資料4の中で、大型機、中型機、小型機別で騒音測定しているが、7月、8月におけるそれぞれの割合はどの程度であるか。  
⇒おおよそであるが、騒音測定された航空機のうち一番割合が多いのが小型機であり、約半数を占める。次に多いのが中型機で、最も割合として少ないのが大型機である。
- ・ 騒音測定値について、今回、これまでと比較して推計平均値を超えているところが少ないと感じているが、何か考察はあるのか。  
⇒季節特有の傾向として、7月、8月はどうしてもセミの影響があるため、航空機騒音として評価できるものが少なくなっていることが原因の一つとして考えられる。なお、前回分科会データ（5月、6月）と今回分科会データ（7月、8月）を比べると異なる傾向が見える状況であるが、昨年7月、8月と比べると傾向としてはほぼ同じである。いずれにせよ、1年間を通じた長期での航空機騒音の傾向を評価することが重要であり、引き続き測定・分析を進めていく。
- ・ 資料4の2ページ目の中型機の測定結果について、説明会等でお示ししていた推計平均値が明記されているものとされていないものが混在しているが、なぜなのか。  
⇒測定局の位置について、新経路の運用開始前に自治体の皆様と相談しながら場所を決定させていただいた。経路から測定局の側方距離と騒音の関係について、従前より示しているデータから適切な騒音推計値として該当するものを明記させていただいている。
- ・ ご案内があったように本日よりB滑走路の西向き離陸において末端からの離陸滑走が開始された。航空機が復便していく状況の中で、運航停止されていたボーイング777の運用が、ニー

ズの高い路線において再開されていると聞いている。地域住民の声を踏まえ、引き続き騒音対策の検討、実施に向けて取り組んでいただくよう要望申し上げる。

⇒今回の取組で終わりではないと考えており、今後も種々の取組を、工夫を凝らして、引き続き検討していきたい。

- ・ 本日、騒音値の継続的な測定や部品欠落の状況について報告があったが、区として引き続きの取組をお願いしたいと考えている。また、現在検討いただいている固定化回避検討会についても、早急な結論をお示しいただくよう、重ねてお願い申し上げる。3点目として、最近、後方乱気流区分の見直しによって従来ルートに戻せるのではないかというご意見をいただいた。この様なご意見があった際に区としても、国から説明があった内容をお伝えしているが、区民の疑問や不安は速やかに払しょくしたいと考えている。引き続きこうした地域からの声を国として把握した際には、関係自治体に速やかな情報提供や説明をお願いしたい。

⇒騒音対策及び落下物対策については、継続して取り組んで参る。固定化回避検討会についても、できるだけ迅速に検討作業を進めていきたいと考えている。一部膨大な量の作業もあるが、作業の時間軸をできるだけ短縮して進めて参りたい。3点目についても、新しいインフォメーション等があれば、誤解がない様な形で、地元のみなさまにも情報提供ができるよう自治体のみなさまとの情報共有や分かりやすい説明を心がけていきたい。